



## ハイメディック

# IP無線通話と位置情報管理で 民間救急搬送サービスの 課題を解決

紹介

株式会社ハイメディックは民間救急搬送や介護タクシー、救急車運行委託事業、イベント救護等のサービスを提供。医療サポートから安全管理まで経験豊富な医療従事者が対応している。

導入システム

業務用IP無線システムiMESH  
動態管理システムモバロケ



## 医療特化型の 民間救急搬送サービス

山梨県を中心に民間救急搬送サービスを展開する株式会社ハイメディック。民間救急搬送とは緊急性は低く、救急車を呼ぶほどではないけれども、介護タクシーでは不安があるような患者に対して、医療処置を継続しながら移動手段を提供するサービスです。ハイメディックでは病院や福祉施設、訪問看護のケアマネージャー、個人などさまざまなところから要請を受け、消防救急車と同等の設備を備える車両で、現場経験の豊富な医療従事者が患者に寄り添う搬送サービスを行っています。



車両内部には緊急時にすぐに応急処置ができる設備が整えられている

## 導入前の課題は 携帯での連絡や紙の報告書

救急搬送の依頼はさまざまなパターンがあり、個人宅や各種現場から医療機関への移動、医療機関の間の移動など、ルートもその都度違ってきます。「以前はスタッフ間の連絡は携帯電話で行っていたので、車両の位置が分からず、常に通話で確認していました。いつも車両の配車手配に時間と手間がかかり、患者様の搬送に影響が出てしまうことがありました」と、担当の津金氏はiMESH導入前の課題を話してくれました。

「連絡に使っていた携帯電話は車両1台に



救急搬送サービス以外にも、スポーツやコンサートなど各種のイベント救護で活躍



導入を担当した津金氏

つき1つでしたので、ハイメディック本部と通話をしていて、病院や現場からの電話を取れなかったりすることもありました」。

さらに、業務の情報管理の部分でも課題を抱えていました。「民間救急では、現場に着いた時間や現場を出た時間、搬送までにかかった時間などを病院や救急隊に伝達しなくてはならないため、時系列で自分たちの行動を記録しておく必要があります。このような記録を紙で行っていたため、病院や消防への情報開示や報告書作成に時間がかかっていました」。こういった課題解決のために選択したのが業務用IP無線システムiMESHでした。

※本事例中に記載の内容は取材当時のものです。



## IP無線通話と 動態管理が導入の決め手

日々の業務で課題を感じる中、展示会で出会ったのがiMESHです。「IP無線での通話と、動態管理によって車両の動きを時系列で記録できるという要件を両方満たしていました」と津金氏。デモを行い、メリットとデメリットの両方を感じましたが、トータルで考えたときに効果が期待できるということで導入に踏み切りました。

## 効率的な情報共有と 配車管理を実現

現在、ハイメディックではハンディ型IP無線機のIM-530を運行本部に1台、各車両に1台ずつ配備して運用しています。iMESHの導入により、第一に通話のメリットを実感しています。「今まで業務で利用していたのは携帯電話だけでしたが、IP無線を追加したことで、病院や現場な

▶ドクターヘリとも連携して、救急搬送を行う

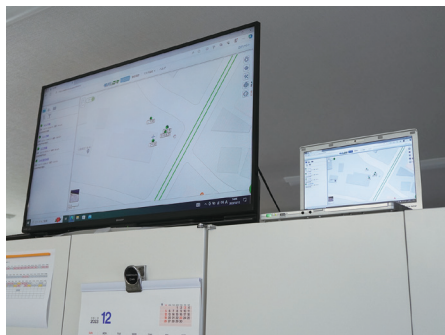
▼(左)本部では車両側とIP無線で通話しながら、配車管理を行う  
(右)端末は充電して車両に持ち込む



どからの電話を取り損ねることなく、すべて受けることができるようになりました」。さらに、配車管理においても「動態管理システムモバロケで、車が今どこを走っているのかひと目で確認できるので、これまでのように電話で位置の確認をする必要がなくなりました。配車指示を効率的に行えるようになり、搬送にかかる時間も削減できました。スタッフの休憩の指示など、運行管理上の問題改善にも役立っています」と津金氏。「お客様からの問合せにも、到着

◀運行本部では大型の専用モニターにモバロケの管理画面を映し出し、社内でも共有

▼管理者はリアルタイムな車両位置情報を地図上で確認できる



時刻等の情報をすぐに提供できるようになり、かなり重宝しています」。

## 報告書作成の 時間短縮と質の向上

モバロケは搬送内容を時系列で自動的に記録できるで、報告書の作成にも役立っています。「“病着”や“緊急”などのステータスを設定し、病院の到着や患者様の容態の急変など重要な事象の発生時間を、動態履歴と共にエクスポートします。データで搬送の全体像が見えるので、報告書の作成にかかる時間が大幅に削減され、報告書の質も向上しました」。

また、ハイメディックでは花火大会やコンサートなどイベント救護の業務も請け負っています。救命スタッフの救護バッグにIP無線機を入れ、救護本部でスタッフの位置と対応状況を管理するような使い方もしています。正確性と迅速性が求められる救護の現場で、iMESHの機能を最大限に利用しています。

※本事例中に記載の内容は取材当時のものです。

